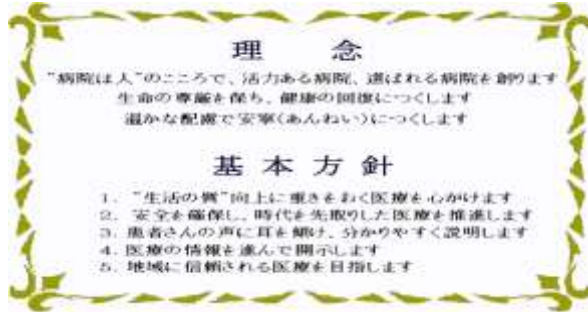


令和 3 年 1 月 1 日 発行  
KKR 札幌医療センター  
〒062-0931  
札幌市豊平区平岸 1 条 6 丁目 3-40  
電話 (011) 822-1811  
<http://www.kkr-smc.com>

(2021-1 号)



1 月(睦月)のこよみ		
1 月 1 日 (金)	元旦	
1 月 11 日 (月)	成人の日	
1 月 20 日 (水)	大寒	



## 発熱のはなし

小児・アレルギーリウマチセンター長  
小林 一郎

人間の体温は寒い時も暑い時も 36.5 度前後に維持されています。脳の視床下部には体温調節中枢という場所があり、ここが設定した体温にからだを調節するからです。寒くなるとふるえが来て手足が冷たくなります。これは体温調節中枢が筋肉の収縮や脂肪の燃焼により熱を産生するように命令し、さらに末梢の血管を収縮させて体温が逃げるのを防ぐからです。体温が上がると今度は末梢の血管を拡張させて体温が逃がし、さらに汗をかくことで体の冷却を始めます。その結果、体温はある一定の幅の中で保たれます。

感染症を起こすと病原体を除去するための体の反応(免疫反応)の一環として発熱物質(インターロイキン-6、インターフェロン- $\gamma$ 、TNF- $\alpha$ などのサイトカイン)が作られます。発熱物質はさらにプロスタグランジン(PG)という物質の産生を促し、PG が体温調節中枢の体温設定を高くさせます。多くの解熱剤はこの PG の産生を抑えることで効果を発揮します。発熱時は前述の通り最初に手足の冷感と震え(悪寒・戦慄)に始まり、熱が上がりきると汗をかいて下がることを繰り返します。発熱は細菌やウイルスの増殖を抑制する効果がありますが、本人にとってもつらいので、解熱剤を使うかどうかは本人の状態で決めます。

免疫反応が暴走して発熱物質を作りすぎてしまう病気もあります。日常診療でしばしば経験されるのは、毎月のように抗生剤の効かない 5 日前後の発熱と扁桃腺やリンパ節の腫れを生じる PFAPA 症候群という病気です。シメチジンという薬で発熱を予防できることがあり多くは小学校高学年くらいまでに治りますが、扁桃摘出をすることもあります。発熱が長く続く疾患にはリウマチ性疾患(大抵は関節痛や発疹などを伴う)や悪性疾患等があります。また脱水や発汗低下による発熱や心因性発熱と思われる患者さんもいます。悪性高熱などの非常にまれな疾患を除いて、発熱が原因で脳に障害が起こることはありません。

当院は「敷地内全面禁煙」となっております

## ❀ 外来化学療法センターの紹介 ❀

外来看護主任 がん化学療法看護認定看護師 石栗 由佳

KKR 札幌医療センター 外来化学療法センターでは、外来で抗がん剤治療を受ける患者さんの治療と看護を担当しています。当センターのスタッフは、採血・問診の案内を担当するアシスタント2名、治療・問診を担当する看護師全9名、がん専門薬剤師1名を配置しています。また当院には、がん薬物療法専門医2名、がん専門看護師3名、がん化学療法看護認定看護師4名、緩和ケア看護認定看護師1名、がん薬物療法専門薬剤師2名、がん薬物療法認定薬剤師2名と専門的知識を持ったスタッフが充実し、当センターとの情報交換を行いながら個別なケアの提供を心がけています。

抗がん剤治療当日の流れを紹介します。

先ず看護師が問診させて頂き、自宅での体調や困っている事、気がかりな事など詳細に伺います。その問診内容は、各診療科看護師と主治医と共有しています。問診後、主治医の診察を受けて頂き、治療を始めます。

抗がん剤治療中には、専門薬剤師が治療薬や副作用について個別に指導を行います。

その際治療内容（抗がん剤指示書）と体調日誌（問診票）を皆さんにお渡しし、院外薬局への提示をお願いしています。これは、他の医療機関や院内薬局の薬剤師さんとの情報交換に役立ちます。

このように、看護師、医師、薬剤師が皆さんの体調を確認しながら苦痛なく安心して治療が続けていけるよう努めています。治療室のスタッフはいつも笑顔を絶やさず、皆さんを元気にお迎えますので、何でもお気軽に相談して下さい ♡

